MJ ZOOMUP

直熱3極出力管SG-50採用 パラシングルモノーラルパワーアンプ

サン・オーディオ
¥241,500（1台）
¥163,800（キット,1台）

SV-TE/50TSX

創業25年のノウハウの結集

サン・オーディオは自作ファンの間でもおなじみであろうが，タムラ製作所の販売代理店として発足した．その後ユーザーからの強い要望を受けて製品開発に着手し，1989年に初めて真空管アンプの商品化を行っている．ちょうど4半世紀前のことになる．それ以来20種以上のアンプが製品化され，国内外に販売されてきた．完成品とともにキット販売も行われ好評を博しているが，同社のキットは唯一ヨーロッパ規格をクリアしたものだという．

本機は2011年に発売されたSV-2A3TSXをベースとして，出力管に**SG-50**を採用した製品だが，シャシーには新たにSV-TE/zero2が採用されている．このシャシーはタムラ製トランス専用のモノーラルアンプシャシーSV-TE/zero1をステレオ仕様としたもので，同社のSVパワーアンプシリーズとほぼ同じサイズである．タムラ製標準トランスのほぼすべてをそのまま装着することができ，またドライブ管のスペースが2本分用意されている．ハムバランサーの設置スペースも出力管の手前に確保し，作業の容易な壁のない構造とするなど，実用性にも配慮した設計である．

出力段に直熱3極管を2パラ接続で使用

出力管の**SG-50**は，中国の曙光電子が**UX-250**の復刻版として2005年に開発した真空管だという．**UX-250**は1928年にRCAから発表された直熱3極管で，開発はウェスチングハウスである．当時のRCAでは，まだ真空管の製造そのものは行っていなかった．

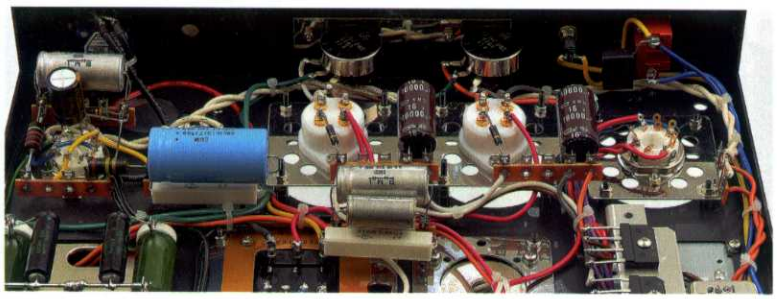
50と呼ばれる**UX-250**の同種管は，ディフォレストやシルヴァニア，レイセオンなどが製造して多数存在するが，後の**300B**や**2A3**などと同じく直熱3極管である．当時ようやく必要とされ始めたPA用として開発された．

実際プッシュプルで使用すると，11Wの出力を得ることが可能という．しかしプレート電圧が450Vと高く，後に発売された**2A3**や**300B**に比べると効率が低いという難点もあった．またグリッド電流が流れやすい，自己バイアスに限られる，フィラメント電圧が特殊であるなど，使いにくいものであるのも確かなようだ．

いわば直熱出力管の先駆的な存在といってよさそうだが，搭載された製品として見かけることはなく，自作ファンの間では人気が高いようだ．使いにくいとはいえ，**300B**などとは

左から電源トランス，平滑コンデンサーとチョークコイル，ドライブトランス，電源トランスと並ぶ．リアパネルに孔隠し処理がされているのは，元々のシャシーがステレオ仕様のため

【主な規格】
●出力：7W
●入力感度・インピーダンス：380mV・100kΩ
●周波数特性：20Hz～40kHz ±3dB
●寸法：364W×210H×280Dmm
●重量：13.5kg
■資料請求先：(株)サン・オーディオ MJ3 係
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-23-9
大和ビル 3F
TEL.03-5296-0271
http://www2.big.or.jp/~sunaudio/



出力管 SG-50 フィラメントは直流点火で，ソケットの至近に整流平滑回路がある．ハムバランサーは天板側から調整する

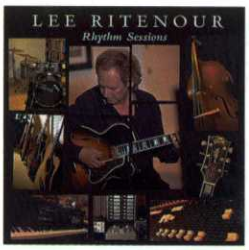
『悪魔のトリル／エンリコ・オノフリ』
アンカー・レコード UZCL-1019

楽器それぞれの存在感が明確

古典的な50という出力管やトランス結合，整流管による電源などから，オールドな音調を想像すると，まったく正反対の印象を受けるはずである．レンジの広さやレスポンスの均一性，立ち上がりの速さなどはまったく現代的そのものだが，質感にまるでにじみがなく，真空管式にありがちな甘さを期待すると肩透かしを食らうことになるだろう．しかしそれで乾いたドライな音かというとそうではなく，たとえばピアノは輪郭が明瞭でくっきりしている．細部のニュアンスを緻密に引き出して表情が豊かだ．バロックは遠近の描き方が適確で，弦楽器の質感は芯が詰まって密度に富む．フォーカスがよく，楽器それぞれの存在感が明確なのにも感心させられる．

オーケストラでは低音弦の引き締まった実体感が心地よく，ダイナミズムの幅の広さも十分だ．フュージョンやジャズの瞬発力の高さや弾みのよさなど，力感に溢れてハイスピードな再現性が堪能できる．きわめて高い水準に達した仕上がりである．

（井上千岳）



『リー・リトナー
／リズム・セッションズ』
WHDエンタテイメント IEZP-35

現代ソースに対応するナチュラルなサウンド

これぞ真空管アンプと思わせる古典的な外観だが，設計年次の古い真空管アンプとは異なり，ナローレンジを意識させることのない広いfレンジと高S/Nを確保した再生音である点に好感が持てる．「テンペスト」は音場の透明度が高く，ピアノのタッチも明晰で余韻も濁りが感じられない．「悪魔のトリル」も演奏者の気配や息遣いが感じられるほどのS/Nが確保され，ヴァイオリンなどに古楽器ならではの優美な響きが感じられる．スーザン・ウォンのヴォーカルは東洋系らしい清楚さがあり，温度感を強調することのないナチュラルなトーンで再現される．「L.A. BY BIKE」では超低域のビートのブーミングを強めることがなく，ギターはアコースティックらしい豊かな響きが聴けた．また『アローン・トゥギャザー』は個々の音像が実在的で，ピアノの和音やウッドベースの低音も適度な厚みが感じられるなど，アナログマスターの質感を損ねることなく再生してくれるのが好ましい．

（小林　貢）